

厳木地区青少年育成研究大会で意見発表☆

12月14日（土）にコミュニティーセンターで、厳木地区青少協研究大会が開催され、厳木町で学んでいる小・中・高校生による意見発表と現在、北陵高等学校の教頭で、平成25年・26年と厳木中学校の校長であった中野義文先生による講演がありました。意見発表会では、子供たちの意見発表に聞き入り、講演会では、講師の先生のお話に引き込まれてあっという間の2時間を過ごしました。

意見発表会では、本校から4名が発表をしました。参加者は子どもの主張にうなずきながら聞いていました。発表者の皆さんありがとうございました。発表者とタイトル内容（あらまし）は次の通りです。

小学6年生

さん タイトル「体育大会で経験したこと」



今年度小中併設校となった厳木小学校の初代の6年生としていろいろなことを1から作り上げる1年を送っています。その中で、体育大会の応援団長の経験から学んだことを伝えました。応援団長を引き受ける前には恥ずかしかったり、遠慮があったりして迷っていたとのことでしたが、いざ引き受けると人前に立って勇気を出して応援団長としての考えを伝え、友達と協力しながら取り組んだことで、目標にした賞の獲得ができた。目的をもって頑張り、結果が結びついたことで自信がついたということを述べました。

6年生

さん タイトル「自由に自分の気持ちを言える世界に」



家族から聞いた戦時中の話や、修学旅行で訪れた長崎の原爆資料館で見聞きしたことから、現在の世界の状況について感じたことを伝えてくれました。私たち人間は言葉を持っています。自由に自分の考えを言葉で伝えられたら、意見の対立があったとしてもよく聞き、力で解決しようとせず言葉で伝え合うことで平和な世界を築いていこうと述べました。

中学1年生

さん タイトル「僕を助けてくれた税金」



幼少のころ、大きな事故に遭いケガをしてその治療を受けた際、入院費や治療費、薬代などが税金から支払われていることを知ったことで、税金の重要性、納税することの大切さを伝えました。直接的には見えにくい税金の使われ方を身をもって感じたことで、税金が身近なものと考えようになった。税金は、私たちがよりよく生きることができるために大切なものであり、税金に対する考え方を深めたいと述べました。

2年生

さん タイトル「『当たり前』に感謝」



今あるものを失った時に当たり前の有難さに気づくこと。これを能登半島の地震を通して考えたことを伝えました。また、今の自分があるのは誰のおかげなのかということを考え、何不自由なく過ごしている日常生活は継続的に続くと考えがちです。しかし、一たび何かしら災害に見舞われると、一瞬にしてあたりまえの日常は失われてしまいます。だからこそ、あたり前だと感じている日々感謝の気持ちを持って大切に過ごしていきたいと伝えました。

第2部では、講師の中野義文先生の「今、子どもたちは」という演題で、学校の昔と今の変化（学校の統廃合や不登校者数の増加、通信制高校の増加）から、家庭・家族の大切さについてお話しいただきました。親（大人）から子どもたちへ「ダメな時にははっきりダメと言うことも大切」ですが、子どもたちの声に耳を傾けしっかり聞き、子どもたちに言葉を選んで「声掛けすることの大切さ」をお話しいただきました。

裏面には、中野先生の講演資料から「こんな生活をしていませんか？ 頭を悪くする生活の10か条」を載せています。心当たりのある方はいらっやらないと思いますが、...